

令和元年度

会館だより

第4号

自治会総会開催
卒寮生から一言

岩手県学生会館

令和元年12月23日発行

新自治会長に小守菜々子さん

12月15日(日)、岩手県学生会館自治会総会が開催されました。参加者は若干少なかったものの、議題となった会計報告は全員承認で可決されました。次に役員選出に移り、会長は特に立候補者はおらず、前会長の林さんの推薦により小守菜々子さん(東大)が新自治会会長に選出されました。その他、副会長、会計は会長一任となり後日選出することとなりました。

総会の後は前会長が自ら買ってきたピザを皆で夕食(?) としていただきました。

なお、小守さんはお兄さん(4年前)に続いての会長となります。お兄さん同様寮生の代表として重責を果たしていただけるものと期待しています。皆で盛り上げていきましょう。頑張ってください。



納涼会開催

やや涼しくなってしまいましたが定例の夏季納涼会が9月29日(日)に開催されました。学園祭の準備などで忙しい人も多く、参加者は十数名でしたが、新入寮生の中嶋君も参加し、昼食をとりながら楽しく懇談しました。今後はもっと多くの方が参加できるように時期と内容を考えていかなければならないでしょう。



在寮期間延長者決定

当会館の在寮期間は2年ですが、空室がある場合は特例として2年間延長することができます。来年4月の空室状況は全員延長を認めない場合は男子20室、女子31室となります。延長対象者がそれぞれ13名ということから延長を全員に認めると空室は男子7室、女子18室となります。例年の応募状況からみると男女とも10名以上の申し込みがあることから男子は全員の延長は認められず、女子は大丈夫であろうということになりました。ただ、男子の応募が20名になるのはめったになく何室か空室が出るであろうということから、決定が3月の盛岡面接の後でもよいという方は延長許可の候補者としてといたしました。それを受けて館長面談を実施し女子は12名が延長許可となりました。男子は6名が希望しています。落ち着かないでしょうがしばらくお待ちください。

卒業生から

就職活動を終えて

杉田 爽

就職活動を振り返って、これから臨まれる皆さんに就職活動において大切だと思うことを2つお伝えしたいと思います。

1つ目は、就活の情報を自分で集めることです。3年生になるとおびただしい数の説明会やインターンシップの情報が毎日メールで送られてきます。その中でも自分の興味のある企業や業界の説明会に参加することはもちろんのこと、時間があれば様々な業界の説明会にも参加することをおすすめします。私自身、3年生の時点ではやりたいことが曖昧だったため、学内説明会などを利用して様々な業界・企業の説明会に参加しました。この経験から自分の興味があることが明確になり志望する業界の動機も深まりました。

また、大学の先輩や寮の先輩から3年生から就活終了までどのようなカレンダーで就活を進めていらしたのか教えていただいたことも就活を進める上で大きかったと思います。早めに説明会に参加していた人限定の選考の情報や、いつまでに何を終わらせるべきかという先輩たちからのアドバイスを基に自己分析やSPIの対策に遅れをとることなく進めることができました。

2つ目は、面接の対策を繰り返し行うことです。面接の対策の中でも必ず聞かれるガクチカや志望動機を深めるために、まずは自己分析をしっかりと行うことをおすすめします。私は「絶対内定2020」というテキストを利用し、自己分析を進めました。自分の軸となっている部分を様々な質問から分析し、企業の雰囲気や求められている人物像と比較しながら面接での受け答えを考えるようにしていました。この自己分析は何度も繰り返し行うことが重要だと思います。

本格的な面接の練習としては、友人・キャリア

センター・リクレーターを通して入退室の方法や、応答の仕方を何度も練習しました。面接は何度経験しても緊張しましたが、練習をした分だけ自信にも繋がりましたし、最終的には面接官との会話を楽しめるようになりました。

以上の2つが私の考える就職活動で大事なポイントです。就職活動はとにかく自分との闘いです。早く決まることに気をとられず、満足のいく結果を出すことに全力を尽くしてほしいと思います。

就職活動体験記

梅津 春希

私は8月中旬に、日本郵便株式会社の窓口コース（岩手県内エリア）に内定を頂き、Uターン就職が決まりました。大学では、中学・高校の国語科の教員免許取得に向けて、教職課程を履修しています。今年は教育実習があり、就職活動期間に重なりました。よって、私は、就職活動と教職課程履修（主に教育実習）を並行していく上で感じたことや、必要だと思ったことを3つの観点から後輩の皆さんにお伝えします。少しでも参考になればいいなと思います。

①教育実習期間の心構え

私の場合は、4年生の6月から7月にかけての3週間が教育実習だったので、周囲が一般企業から内定をもらい始めた期間でもありました。この期間は、就職活動にあてる時間がほとんどない上に、一社も受けていない状態だったので、焦りを感じていました。しかし、焦りを感じながら実習に臨むと、授業づくりや教壇実習などやるべきことに力が入らないです。これは、実習校の先生や担当クラスの生徒たちに失礼なことだったと思いました。実習期間にしか経験できない学びが沢山あるので、この期間は周囲に流されないように、自分のペースを大切にすることが重要だと考えます。実習が終わってからでも、企業を選択する時間は十分に

あるので大丈夫です。

②教職の学びで就職活動に活かされたこと

教職課程を履修して、「教員になるつもりはないな…」「教育実習まったく自信がない…」「何で卒業要件の単位にならないの…」等々、やめようと思うことが何回もありました。

でも、教職担当の教授からは「教員にならなくてもこの経験は必ず生きてくる」と言われました。その言葉を信じて、今年教育実習に臨みました。確かに教授の言葉通り、母校の先生から頂いたアドバイスや、真剣に教壇実習の授業を受けてくれた生徒たちとの関わりは自分にとって大きな自信に繋がりました。

同様に、一般企業の就職活動でも、その自信は自分にとっての力になりました。特に、大勢の生徒の前で授業を行う機会を得たので、怖いもの無しという気持ちで対一の面接に緊張せずに臨むことができました。また、教育相談という授業で学んだ「表情の豊かさ」を意識して、笑顔で面接に臨んだところ、面接官の方に「その笑顔は長所だね」と言ってもらえることができました。教職の授業で学んだことは、面接で良い印象を持ってもらうきっかけにも繋がったと感じました。このように、個人的には教職課程で学んだことで、就職活動に活かされたと思うことが沢山あります。本当に続けて良かったと今は心から感じています。

教職課程履修に関して、本当に嫌なときはやめるのも一つの手段だと思います。でも、教員になる・ならないは関係なく、教職を学んだ経験は自分の中で大きな力になるので、現在やめようか悩んでいる人には続けることをおすすめします。

③ほどよい休みを取る

ほどよい休みと書きましたが、正直言って私は就職活動に関して、ほとんど休みながら行っていました。企業のWEB試験や面接、教育実習の研究授業など、「やるべき時に全力を出す」を心掛けて、あとはのんびり過ごしていました。人それぞれ感じ方は違いますが、今してみると就職活動はそれほど過酷なものではないように思います。内定を頂いて自分の就職先を決めるまでの期間は「秒だった」という印象が大きいです。ですので、就職

活動に不安を持っている方は、そんなに気構えなくて大丈夫だと思います。けっこう何とかあります。先ほども書きましたが、自分のペースを大切に、自分が納得する結果を見つけていってください。また、支えてくれる人たちに感謝の気持ちを持って、就職活動に臨んでみてください。応援しています。

学生会館で過ごした4年間

503 長谷川ゆい

卒業するにあたって就活のことを書いて欲しいと言われたのだが、私の場合何の参考にもならないので、ここで過ごした4年を振り返って見ようと思う。

憧れていた東京の大学に入学が決まり、家を探すことに。晴れて憧れていた東京での一人暮らしができる！と思っていた矢先、母から学生会館を勧められた。

共同のお風呂に共同のトイレ?!絶対にやだ!一人暮らしがしたい!とはじめ駄々をこねたが、嫌々見学に行くことになった。

すと思っていたより綺麗な外観に、銭湯のような広いお風呂。部屋からは見晴らしの良い景色。それにご飯も用意されるなら良いじゃない!とあっさり気に入った私は学生会館に住むことに決めた。

学生会館に入ったあとは、高校からの友人もいたおかげですぐ慣れることができた。新たな友人もたくさんでき、食堂で会っておしゃべりをしたり、部屋で一緒にTVを見たり、とても楽しい日々を過ごすことができた。

みんなで玄関のクリスマスツリーの飾り付けをしたり、クリスマスパーティーをしたのも良い思い出。今年の10月に来た大型台風の時には、みんなで食堂に集まってニュースを見たり、ゲームをしたりもした。

また、インフルエンザにかかり食堂でご飯が食べられなくなった時は、寮母さんが部屋までご飯を運んでくださったこともあった。

そんなもし一人暮らしだったら心細い日や状況でも、友人たちと顔を合わせて話をしたり相談しあったり、助けてもらうことで安心して生活することができた。

大学の一人暮らしをしている友人と比べても、とても有り難くつくづく恵まれた環境だったと思う。

恵まれた環境があったからこそ、大学の授業やサークル、バイト、興味のある様々なことにチャレンジすることができ、とても充実した4年間を過ごすことができた。

今後は学生会館を卒業して、東京での初めての一人暮らしが待っているが、食事や身の回りのことを一人でちゃんとできるのだろうか。今は楽しみ半分、不安が半分。

学生会館で過ごした日々を胸に、来年からは社会人として、本当の自律を目指して頑張っていこうと思う。

会館からの連絡

○冬季休業

会館の冬季休業は12月28日(土)から翌年の1月6日(月)までです。この間、食事の提供はありません。また掃除もお休みになりますので、居残る人は特にも汚さないように気を付けてください。また、お風呂については入浴制限がかかりますので掲示板に注意しててください。

○帰省する前に

一年の仕舞いの月です。まず、身辺を整え、清浄な状態で一年を振り返ってください。人それぞれ思いがあるでしょうが、次の年を飛躍の一年にするためにも己を厳しく見つめなおしてください。その第一歩として部屋をきれいすること。新たな力がみなぎってくるはずですよ。ごみを捨てるだけでも違いますよ。なお、今年の最後のゴミ収集は28日(土)です。くれぐれもこの後は出さないようにしてください。

○傘の放置について

誰の傘でしょう？なぜこの人だけがこのようなことを？特別な人なののでしょうか？みんなで真似

したらどうなるのでしょうか？



天上天下唯我独尊？・・・なわけないよ！

これと同じようにレターボックスの中が物置化している方がおります。数名！靴は部屋で管理すること、レターボックスにはものを留め置かないこと、どうか順守のほどお願いいたします。

○会社等説明会の開催について

年が明けて早々、1月11日(土)に会社等説明会を開催します。学年関係なく誰でも参加できます。早めの就活体験、1、2年生も奮ってご参加ください。

編集後記

新しい元号、令和。万葉集からとったそうですがもともと令和という言葉があるのではなく、文中で使われていた言葉の中から2文字を抽出して作ったものようです。つまり令和という言葉は造語なのです。その意味は作った人が定めるのでしょうか。個人的には新天皇がこれにすれば何の違和感もなく受け入れそうな気がしますが、令和おじさんみたいな人がこれです、と言ってもなんか変だなと思ってしまいます。

さて、その令和に慣らされて、今年も残りわずかです。学生諸君！大いなる飛躍を求めて自己研鑽に励むべし！

よいお年を。

S

令和元年十二月二十三日発行

編集並びに発行元 公益財団法人岩手県学生援護会

岩手県学生会館

同 学生自治会

住 所 東京都豊島区要町二丁目5番5号

t e l 03 (3972) 4783

f a x 03 (6676) 4471